

【別添】



調査サマリー

中高生対象「契約リテラシー」に関する実態調査

- ・ゲームを体験した中高生のうち約35%が“不利な契約”を見抜かなかった。3人に1人が文書内容の確認漏れや、誤った判断をする結果に。
- ・約96%と大多数の中高生が「契約を体験したことがない」と回答。

教員対象「子どもの契約リテラシー」に対する意識調査

- ・教員の注目度が高かったのは、少額から始まる金銭トラブル。
- ・教員約85%が「契約」や「個人情報の取扱い」を教える機会が不足していると回答。
- ・教員全員が、体験型学習の拡充や、保護者を巻き込んだ学びの機会の創出を希望。

ゲームイメージ（一例）

「かんたん写真撮影アルバイト」契約書

第一条：しごとの内容

下関市で、かんたん写真撮影のアルバイトです。
住宅地をまわって写真を撮り、たとえ他人の家でも、
できるだけ中まで入って撮影してください。
そのとき、住んでいる人にバレないようにしてください。

第二条：お金について

外から撮った写真：1枚150円
家の中まで撮れた写真：1枚1,500円

第三条：ルール

このアルバイトのことは誰にも話してはいけません。
契約のときには、あなたの本人確認書類のコピーを取ります。
さらに、家族や友だちの名前・電話番号・職場なども教えてください。

※この契約について、私たちは何も責任を負いません。
※連絡はSNSのDMでのみ行います。

契約書の内容をよく読んで
契約してもいいかを判断する

この契約、あやしい？安全？

あやしい

安全